

作成日 2013/3/10

表題：A級ライセンス審判講習会

日時：平成25年3月9日

場所：東京 講道館 5階 女子部道場

出席者：福井県柔道連盟 山本 幸雄／瀧波 英一郎

講習内容

国際審判規定の解説及び、現在試験実施中の国際審判規定のルール変更内容の説明

講習資料は、添付 平成24年度Aライセンス審判研修会PDF参照願います。

初めに、現在国際試合で試験的に導入されている国際審判規定に関しては、今年の8月～9月の世界選手権後に正式採用される予定で、若干の手直しがあるかもしれないが、9割方採用されるとの事でした。

新ルールの大きな変更内容

- ・立ち姿勢での帯から下の攻撃が全て反則まけとなる。
 - ・寝技抑え込みは場外でも継続される。
 - ・絞め、関節技の場合、技の効果が認められる場合、場外でも継続される。
 - ・場外際の投げ技から連携して寝技に移行した場合、場外でも寝技の効果が認められる。
 - ・片襟、クロスグリップ等を含め、標準的な組み方で無い場合、即時に攻撃しない場合、指導が与えられる。(5秒ルールは無く成る)
 - ・両手で相手の釣り手を切る、片手で襟を抑える等のネガティブ柔道は、即時指導がとられる。
 - ・ベアハグは1回目より指導と成る。
 - ・試合の優劣は、技のポイント(有効/技有)が優先され、指導は3回目までポイントとならない。ただし、技のポイントが同じ場合、指導の多い方が負けとなる。
- また、指導は4回目で反則まけと成る。
- ・ゴールデンスコアは無制限(ただし、指導が来た時点で試合終了となる)
 - ・1人審判制となる。(ただし、ビデオケアシステムの導入が前提、ビデオケアシステムが導入出来ないローカルな試合は、申し合わせ(3審制)で実施しても良い。

講習内容

1. 投げ技

- ・立ち姿勢は片膝が畳から離れていること、両膝が着いたら寝姿勢、但し、立ち勝負からの流れの中で瞬間的に両膝が着く程度は立ち姿勢とみなす。流れを理解する事

新ルール補足⇒上記の内容は、基本的な内容ですが、新ルールでは、立ち姿勢からの脚か

ら下の攻撃、または、手を使った防御、すべて反則負けと成るため、寝姿勢に移行してからの足とりかを十分に見極める必要があります。

・ブリッジして逃れても、投げ技の評価に相当するスコアを与える事

新ルール補足⇒ 従来の考え方で良い

・巴投げや背負い投等において、中断して投げた時は1本とならない。

新ルール補足⇒「一本」の価値を再確認し、ローリングした様なはずみの無い技は、最高でも「技有」となる。また、投げた時の背部の着地面だけで判断するのではなく、技の本質を理解して「一本」を判断する。

(背負い投げで、足から先に落ちるケースや、払い越しで回りすぎたケースも技の本質を理解し、判断する事)

・試合終了の合図と同時に施された技はスコアとなる。微妙な時は時計係と合議が必要

補足⇒正式な大会では、時計係は21歳以上で3年以上の審判経験がある人が行うので、その場合は、時計係も責任を持って時間内かを判断する事。

ただし、ローカルの試合の場合はその都度判断する。

寝技

少なくとも試合者の一方の体の一部が、試合会場に触れている事

新ルール補足⇒

寝技抑え込みは場外でも継続される。

絞め、関節技の場合、技の効果が認められる場合、場外でも継続される。

場外際の投げ技から連携して寝技に移行した場合、場外でも寝技の効果が認められる。

負傷

・頭部、脊髄等の重大なケガは、ドクターを審判の判断で呼んで良い、また、試合継続の可否に関しては医師に確認する。試合続行不可能とされた場合、合議の上、相手に「棄権勝ち」を与える

・その他のケガに関しては、選手に対しドクターが必要か確認する。

選手がドクターを要求した場合は、合議の上、相手に「棄権勝ち」を与える

・止血は3回まで可能、また止血剤の使用も認められる。

(鼻血の場合左右同時でも、左右別々に1回とカウントする。)

生理による出血の場合、ケガでは無いので、女性の審判/係委員、立ち会いの元、道着の交換をさせる。ただし、長時間になると反則負けになる可能性があるため、必要に応じて、予備の柔道着を準備する事。